

# 野菜を作りませう

大 岩 金

一億國民ごぞつて戦時國策にそふべきこの昭和十八年こそ、私共にも出來ます丈の事は致したいものご、大いに張りきつて居ります。それにはなんごいつても、丈夫な體でなければなりません。達者なごでさへあれば、思ふやうに働けて、常に愉快にすごされます。

さて我田一水ながら、丈夫な體を作ります爲に、國策にそふ食糧増産の爲に、又あるもので間に合はせる爲に、大いに家庭で野菜を作りませう。

それには先づこの二月におきまして左記の事をしておきませう。

## 一 地拵へ

### 1、深耕と精耕

日常りの好い所は勿論ですが、多少日蔭になる所も、みんな利用したいご思ひますので、野菜を作つても差支へない場所は、少しでも廣く耕しませう。既に冬耕を終わつて春の播種をお待ちの方もありませう。

秋作の收穫そのまゝになつてゐる所も、この度新しく菜園にする所も、出來る丈深く、(一尺以上)丁寧に耕します。諺に、「九耕無毛」ご申しますが、これは大根のやうな根菜類を作る時ばかりでなく、いづれの作物を栽培するにも大切なごであります。そして新しい所には、石、瓦片などがよく埋つてゐるものでありますから、それ等を取り出しておきます。

### 2、石灰を撒く。

土壤の殺菌消毒、中和、又間接肥料として、石灰を一坪につき、二合位の割合に耕した面全體に撒きます。

もし石灰がなければ木灰、これもすぐ間に合はなければ後で撒きませう。

そして耕した土の中に混入しておきます。

### 3、溝を作る。

平に耕された次には是に溝を作つておきます。深さはなるべく深い方がよいのであります。次の溝までの距離は深

さに依つて異なり、深ければ深い丈遠くなる筈であります。盛り上げた土が崩れ落ちない丈の間隔をこればよいのであります。狭い場所へ、彼處此處、點在させて耕した場合には、山高く盛り上げておいてもよいのであります。このやうに、凹凸をつけておきますと、日照、通風共によろしく、又霜柱なども立ち易いので、その爲土中に潛在してゐる病を死滅させ、又粘土質の土壤は膨軟になるなき、この寒氣に耕耘は極めて大切であります。

### 3、基肥として

日々出ますお糞所の屑物(野菜、魚、その他塵埃なき出來次第溝の中)に、れます。もし犬、猫なきに荒される心配のある時は、少し土を覆つておきます。又時には下肥、米のこぎ汁なきも屑物同様この溝に入れます。塵埃の中でも、容易に腐り難い、紙屑、木屑、その外燃えて灰になりさうな物は灰を作つて入れます。このやうに色々工夫して自給自足基肥を充分に入れて、土地を肥やして、三月の播種、植付を待ちませう。

## 二、今春の栽培豫定

家庭や、幼稚園、わけて目下の所は、なるべく作り易い物を選んで、出来る丈多收穫につこめませう。そして我が家の野菜はなるべく我が家で作ったもので間に、はせるやうに努力致しませう。

家庭栽培用の野菜を選定するに當りましては次の諸點を念頭におきたいと思ひます。

### 1、適材適所を選ぶこと

即ち屋敷廻りは、大方の場合日照のよい所を、さほごでない場所が有り勝ちなものであります。又地味におきましても、肥瘦様々であります。土質に就きましても、軽重色々であります。夫々に應じた種類を選ばなければ勢して甲斐のない事になります。

### 2、小野菜を主とすること

廣い面積の菜園は別として大體にはあまり大きくならない種類を多くこり入れた方がよいと思ひます。狭い畑に大きなものでは、直に畑を一杯に塞ぎ、外のものにも蔭を多かつくり易くなります。

3、少量宛ながら始終入用なもの、(例パセリ、二十日大根、シソ等)

### 4、栽培期間のあまり長くないものを選ぶこと。

5、收穫期間のなるべく長いものを選ぶ事狭い畑に幾日もくも同じ物の世話をして、その上やうやく收穫の時期に達しますや、その一時は大喜び致しましても一回にして既に收穫の終りを告げるやうなものでは家庭栽培用種としては、興味の薄らぎ易いものではないかと思ひます、毎日畑を見廻る毎に收穫の喜びの味はれるやうな比較的收穫期

間の長いものゝ方がよいと思ひます。

#### 6、連作と輪作のこと

大方の野菜は連作を嫌ふものでありますが、家庭蔬菜園にありましては、なるべく連作して差支へないものを選ぶ方がよいと思ひます。止むなく休裁して輪裁にする場合でも、あまり長期の休裁を要するものをさける事に注意致します。しかし客土をいつて、他の土をとりかへる方法もあるのであります。このやうな點からも、栽培の間際になつて、あはてる事のないやうに、この寒い比較的暇な中に豫定を立て、おく事が必要であります。

左に野菜 日照、土質、休裁年限等との關係を喜田茂一郎氏著の蔬菜園藝要覽より轉載し御参考に供したいと思ひます、但し家庭栽培用に適するものご考へましたものゝみを記す事に致しました。

#### 一、日照との關係

2、強光線、即ち日照を好むもの 瓜類、豆類、結球類、芋類、茄科類、根菜類、玉蜀黍。

2、半日蔭に耐もるへの 葉菜類、宿根類、里芋、蕪、甘露子、苺、百合類、蒨類、(玉葱を除く)小野菜(早採牛蒡、葉人參、二十日大根、三葉、菠薐草、葉蕃椒等)。

3、半日蔭を好むもの 韭、蔴。

#### 二、土質との關係

1、輕土に適するもの 根菜類、南瓜、トマト、玉葱、落花生。

2、重土に適するもの 宿根類、蒨類(玉葱を除く)結球類、葉菜類、胡瓜、糸瓜、茄子、蕪菁、料理菊、豆類、百合類。

3、各種の土質に耐へるもの 馬鈴薯、豆類、玉蜀黍、薺。4、最も肥沃な土地を要するもの ○茄子、○蔴、蕪、結球白菜、胡瓜、○葱、○高苜。

○印は殊に有機質堆肥の如きものを多く要するものを示す。

5、半瘠地に堪へるもの 豆類、南瓜、トマト、馬鈴薯、菊芋、玉蜀黍。

6、酸性に抵抗力の強いもの 二十日大根、玉蜀黍、百合。

7、酸性に抵抗力の稍々強いもの 大根、葱、トマト、里芋、蔴、三葉、蕪、南瓜、蕪荷、苺。

8、酸性に抵抗力の稍々弱いもの 茄子、蠶豆、牛蒡、胡瓜、結球白菜、馬鈴薯。

9、酸性に抵抗力の最も弱いもの 菠薐草、玉葱、高苜、豌豆、菜豆、大豆、小豆、人參、落花生。

日本の土質は概して酸性土壤が多く、又連作に依つても往々にして酸性土壤になり易いのであります。